

**企画展示** 館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際には是非ご覧ください。

### ライブラリープラザ 1F

#### ■「新・湯治」とその楽しみ方 (2023年1月～3月)

温泉地には、温泉だけでなく多様な自然、歴史・文化、食など様々な魅力が詰まっています。「新・湯治」とは、平成29年7月に「自然等の地域資源を活かした温泉地の活性化に関する有識者会議」により提言された、現代のライフスタイルにあった温泉地の過ごし方の提案です。「新・湯治」は、温泉地周辺の地域資源を多くの人が楽しみ、温泉地に滞在することを通じて心身ともにリフレッシュすること、そして温泉地を多くの人々が訪れることで、温泉地自身のにぎわいを生み出していくことを目指しています。(環境省 HPより <https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/index.html>)

また温泉地の魅力向上や人々の健康増進に寄与することを期待して、全国の温泉地では、温泉地に滞在することの療養効果—温泉地での滞在全体がどのように心身へ影響を与えるか—を把握する調査が長年続けられてきました。

旅の図書館では、今回その取り組みを展示でわかりやすくご案内します。宿泊施設の資料も揃えておりますので、是非ご来館下さい。



### エントランスギャラリー 1F

#### ■ 脱炭素と観光の現在地 (2022年12月～2023年3月)

今回の展示では、研究成果の一部として、交通・輸送・エネルギー面における脱炭素化、観光地としてカーボンニュートラルを目指すパラオ、脱炭素化の取組を見える化したブルガリアの事例など、観光や交通・運輸の分野で脱炭素に取り組む4つのケースを取り上げ、紹介しています。

また、機関誌「観光文化」において独自に整理・提示した「持続させる対象」と「取組の時間軸」の2軸からなるサステナブルツーリズムのフレームワークに照らして、

脱炭素の取り組みの位置づけの変遷についても考察しています。



### 古書展示ギャラリー 1F

#### ■ 古書からひもとく戦前の京都観光 (2022年12月～2023年3月)

日本のみならず海外からも高い知名度と人気を誇る京都ですが、その歴史の中で大きな転機となったのは明治2年の東京遷都でした。衰退していきまのうちに危機感を持った地元の豪商は明治4年に博覧会を企画・開催します。京都博覧会はその後も継続して開催されますが、伝統産業や伝統文化のみならず、琵琶湖疎水の整備、水道事業、道路の拡張、電気軌道敷設による交通網整備事業といった都市整備も博覧会の目玉になります。独自の観光政策を展開してきた京都市は昭和5年に行政として初めて観光課を設置。その後、全国の観光協

会等とともに日本観光地連合会を結成するなど、日本の観光行政を牽引してきました。京都を代表する年中行事や観光施設の中には、明治・大正期に整備されたものも多く存在します。近代京都の歴史をふまえて、ぜひ現代の京都観光を楽しんでみてください。



## Information

港区には、公立図書館の他に民間が運営する専門図書館などが数多くあります。旅の図書館もその一つになりますが、それぞれの専門図書館とのネットワークの強化に取り組んでいます。今回よりシリーズで各図書館を紹介していきます。

### <第一回> ～BICライブラリ様からのご案内～

BIC (Business Information Commons) ライブラリは「機械産業」と「ビジネス情報」の専門図書館です。どなたでもご利用いただける公開型の図書館で、1964年の創立以降、国内外の機械産業情報を収集、提供してきました。2011年に館内を全面改装し、機械工業図書館からBICライブラリとしてリニューアル後はビジネス支援サービスにも力を入れています。地下1階のオープンスペースでは仕事に役立つ最新情報を揃え、特に機械産業業界を中心とした市場動向や経営情報が充実しています。地下2階の書庫には、雑誌や白書・年鑑などの定期刊

行物のバックナンバーや、機械関連企業・団体の年史などを取っています。館内はFree Wi-Fiで、閲覧席28席のほかにコンセントタップ付の個人ブースも5室用意しています。日本のものづくり産業の歴史から未来への発展まで、当館資料で紐解いてみませんか。

- 所在地 東京港区芝公園3-5-8 機械振興会館B1階
- 開館時間 10:00～17:00
- 休館日 土曜・日曜・祝祭日、毎月最終金曜日、創立記念日

<http://www.jspmi.or.jp/biclibrary/> (BICライブラリ)



プレミアムブース(個人ブース)



BICライブラリ館内

<表紙のご案内> 6ヶ所の温泉は環境省が推進する「全国『新・湯治』効果測定調査プロジェクト」の協力温泉地です。



# たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —



# Vol. 22

2023年1月号



豊富温泉(北海道)



高湯温泉(福島県)



湯河原温泉(神奈川県)



湯田温泉(山口県)



<にさき六郷温泉(大分県)>



長湯温泉(大分県)

# 「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

## 「旅の学び舎」 ～観光地づくり講座を開催いたしました～



### 東洋大学

～国際観光学部 内田ゼミナールの  
皆様がご来館されました～

11月中旬に、内田ゼミナールの皆様18名が来館されました。図書館スタッフによるレクチャー、意見交換後、様々な蔵書を手にとってご覧いただきました。学生の皆さんからは、「初めて旅の図書館に訪れたのですが、最新の資料だけでなく、観光の歴史や観光関連の貴重な資料などがたくさんあり、魅力的な図書館で勉強になりました」「自分一人の力では探し出せないような資料が沢山あり、卒業論文のテーマを考えるにあたって非常に参考になりました」などの感想をいただきました。内田先生からも、「近年の学生はデータベースの充実もあり、本を手取る機会が少なくなりました。書籍にしかない魅力、書籍を探すことで広がる世界を皆様のご指導のもと、学ぶことができました。」との貴重なご意見をいただきました。

内田ゼミナールの皆様には、2021年夏、当館の紹介により秋田県湯沢市で開催された「ゆざわジオパークカレッジ」にもご参加いただきました。これからも皆様との繋がりを大切に、図書館としての発信力を強化していきたいと思っております。



2022年度、当財団では、観光文化の振興に向けた基礎知識、旬の話題や特定テーマを学び・共有する「旅の学び舎」を新たに創設致しました。その第一弾として、連続した講義により体系的に観光振興の基本を学ぶ「観光地づくり講座」を10月から12月にかけて全10回開催しました。コロナ禍からの再起動に向けて観光振興の実務に携わる皆様を対象として、様々な観光地づくりを実践してきた同財団の上席主任研究員が講師となり、観光による地域活性化のノウハウをお伝えいたしました。グループワークなどを通して、参加者間の交流も深めていただきました。2023年度も開催する予定ですのでどうぞご参加ください。

## 2022年図書館総合展 ～カンファレンスin機械振興会館が LIVEで開催されました～

図書館総合展は、図書館関連で最大のトレードショーであると同時に、館種を超えた図書館界全体の交流・情報交換の場となっています。2022年も11月1日～11月30日まで、「第22回図書館総合展ONLINE\_plus」が開催されました。11月5日には、カンファレンスin機械振興会館がLIVEで開催され、第一部「港区専門図書館の事例報告」では、当館の石田副館長が「観光における“研究・情報のプラットフォーム”を目指して～多様な連携から生まれるもの～」とのタイトルでプレゼンテーションを行いました。内外との“繋がり”を大切にこれからも旅の専門図書館としての役割を果たしていきたいと思っております。



# 旅の図書館オススメの一冊！

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します。



- 1 **エアライン・マネジメント -戦略と実践-**  
日本航空株式会社 著 インプレス 2022年9月 318頁  
航空業界の歴史や構造などの基本から、レベニューマネジメント、航空会社による地域活性化やCO<sub>2</sub>削減への取り組み、さらには次世代モビリティなど、コロナ禍を乗り越え未来に向かう航空業界の最新の取り組みを体系的に学ぶ。
- 2 **循環型地場産業の創造 持続可能な地域・産業づくりに向けて**  
熊坂敏彦 著 社会評論社 2022年9月 220頁  
地場産業の「革新的DNA」はいかに発現し持続可能な地域・産業づくりに貢献しているか？ 地場産業による観光と「まちづくり」との関係など、持続可能な地域・産業づくりを目指す「統合型地域産業政策」の枠組み・構想を提示。
- 3 **観光経済学 理論とデータで学ぶ**  
山内弘隆・山本史門・山崎茂雄・川口明子 編 有斐閣 2022年11月 334頁  
「観光」という行動をデータから経済学的に捉える1冊。観光のあり方が問われる今こそ必要になる理論を、豊富な事例と第一線の専門家の解説でわかりやすく体系化。観光のニュースタンド。経済学のサブテキストとしても最適。
- 4 **杉原千畝とスターリン**  
石郷岡建 著 五月書房新社 2022年9月 414頁  
「スターリン率いるソビエト共産党は、日本へ向かうユダヤ人への通過ビザを発給したのか？」との疑問から出発。300点を越す膨大な写真と図解、公文書の数々が語りかける、ユダヤ問題の史実。
- 5 **観光産業のグレート・リセット 成長をどうデザインするか**  
野田健太郎・熊田順一 編著 中央経済社 2022年11月 205頁  
観光産業は新型コロナウイルスの影響を最も受けた業界のひとつ。単なる回復にとどまらず、そのレベルを超えた回復（ビルド・バック・ベター）が必要となる。SDGsを通じてより高いレベルの回復を目指す処方箋を提案する。
- 6 **スキー場は夏に儲ける! 誰も気づいていない「逆転ヒット」の法則**  
和田寛 著 東洋経済新報社 2022年11月 270頁  
衰退著しかった白馬を「夏のリゾート地」に変えた「逆転の発想」。誰も気づいていない「儲けの種」を見つけ、磨く全手法を初公開！「官僚→コンサル→スキー場経営者」異色の男が明かす「逆転ヒット」の法則。
- 7 **ANA 苦闘の1000日**  
高尾泰朗 著 日経BP 2022年9月 319頁  
2020年春。空港では見たことのない景色が広がっていた。ANA HDはどのように難局を切り抜けたのか。あの時、経営者や社員達は何を思い、何をしたのか。そして今、課題は何か。「苦闘の1000日」の全記録。
- 8 **心身と地域を元気にするウェルネスツーリズム**  
関口陽一 著 金融財政事情研究会 2022年12月 222頁  
ウェルネスツーリズムへの官民の参画が始まっている。癒し効果が人も社会も経済も豊かにする、スマートでエコな業態的システム。その全体像を解き明かす国内初の書、国内外の保養地の成功事例、国の関連施策も紹介。

## この雑誌が面白い!

### 和 nagomi

人、社会、地域の「和」は豊かな自然・文化など魅力あふれる「和歌山」で育ちます。その「和」の中でこそ「和み」が生まれるのです。そんな「和歌山」の魅力を発信していく地域情報誌。季節ごとの旬な情報がコンパクトに掲載されています。

